

大阪工業大学 学生員 平田 淳
 大阪工業大学 学生員 ○田中 寿生
 大阪工業大学 学生員 松下 直文
 大阪工業大学 正会員 岩崎 義一

1. 背景と目的

オフィスビルや商業店舗の建ち並ぶ商業・業務地区（以下、CBD と呼ぶ）内の住区基幹公園の利用ニーズは高く、多様である。しかし、ニーズは高いものの、CBD に公園を新しく設置するのは困難な場合が多く、既存の住区基幹公園の高度利用を促進するための検討が必要と考える。とくに、CBD は、ビジネスマン等が回遊する地区であり、住区基幹公園とその付近の施設が利用に大きく関係することから、この点を明らかにされれば、都心部における公園の高度利用に資する整備計画に大きく寄与されと考えられる。

そこで本研究は、住区基幹公園の利用とその付近の施設との関係を明らかにすることを目的に、住区基幹公園の利用現況、公園利用者の直前にいた場所と利用形態との関連などの特性について明らかにした。

本研究では、CBD にある大阪市中央区北部に存在する 7 ヶ所の住区基幹公園を対象に、現地踏査、アンケート調査、観察調査を行った。

（実施日：現地踏査 2001 年 5 月・7 月、アンケート・観察調査 5 月・7 月、9 月 24 日～10 月 15 日、サンプル数 410 件）

2. 対象公園の分布状況と利用特性

（1）対象公園の分布状況と詳細

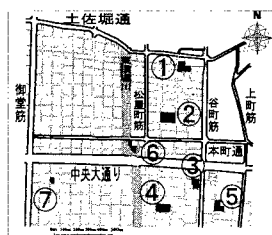


図-1 中央区北部の住区基幹公園分布状況

番号	名称	面積	平日利用者数	休日利用者数
①	北大江公園	5,484(m ²)	153(A)	129(A)
②	中大江公園	10,590(m ²)	212(A)	243(A)
③	谷西緑地公園	4,288(m ²)	76(A)	68(A)
④	南大江公園	5,315(m ²)	251(A)	221(A)
⑤	銀座公園	5,117(m ²)	143(A)	132(A)
⑥	東楽園公園	1,716(m ²)	53(A)	78(A)
⑦	久宝公園	1,219(m ²)	65(A)	48(A)

対象公園の立地環境をみると、①、②、④、⑤は、マンション、オフィスビルに囲まれ、利用者の多いにぎやかな公園である。③は、向かいに老人福祉センターと保育所があり、他に比べて利用者の少ない公園である。⑥は、川沿いにある非常に利用者の少ない小さな公園である。⑦は、対象公園の中で最も小さく、オフィスビルに囲まれ、近くに商店街があり、昼の時間帯に利用者が集中する公園である。

（2）対象公園の利用にみる特性

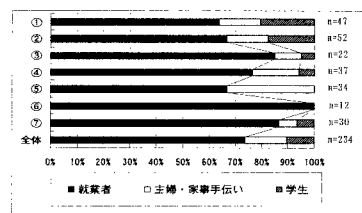


図-2 各対象公園別利用属性

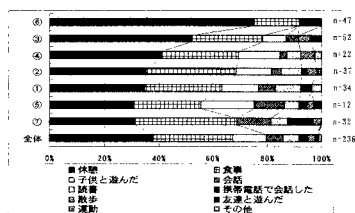


図-3 各対象公園別利用形態

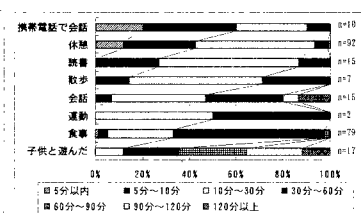


図-4 利用形態別滞留時間

各々の対象公園の属性別利用をみると、対象公園全体では、就業者が 72%、主婦 13%、学生 10%、その他 5% と続いており、就業者が圧倒的に多い。個々の公園の構成比も概ね同様である（図-2）。次に利用形態をみると、いずれも「休憩」、「食事」が多くみられ、⑥、⑦では、「子供と遊んだ」がみられなかった（図-3）。利用形態別の滞留時間をみると、平均滞留時間が 24 分となっているなかで、利用形態が最も多かった「休憩」は平均 12 分、次に多かった「食事」は平均 36 分となっており、滞留時間が長いのは「子供と遊ぶ」で平均 79 分である。利用形態別滞留時間の特徴としては、「食事」、「子供と遊ぶ」以外の利用のほとんどが 10 分から 30 分の範囲にとどまるということである。

3. 公園の利用希求図にみる特性

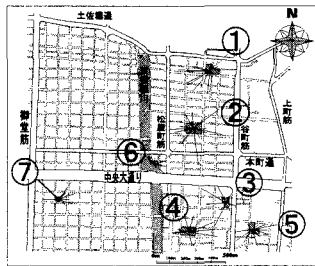


図-5 対象公園の直前場所からみる希求図

4. 各公園の周辺施設現況

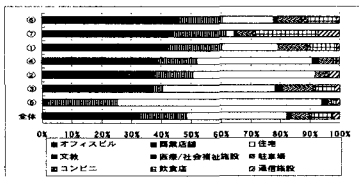


図-7 各対象公園別半径150m内の周辺施設構成比

5. 周辺施設と利用形態

周辺施設と利用形態との関係を見ると、「オフィス」、「コンビニエンスストア」からの利用が全体の68.4%で、うち「休憩」、「食事」が90.3%を占めており、いずれも単純平均距離は119mとなった。次に「マンション」からの利用が19.5%で、うち「子供を遊ばせる」が70.5%を占めており、単純平均距離が184.0mとなり、「オフィス」、「コンビニエンスストア」に比べて遠い場所からの利用がみられた(表-2)。次に、単純平均距離の最も短かった⑥、⑦についてみると、居住者の利用がほとんどみられず、単純平均距離は、97.1mとなった(表-3)。さらに、残りの公園についてみると、「マンション」からの利用が21.0%で、その単純平均距離は188.8mとなった(表-4)。以上をまとめると、周辺施設利用者の中でも周辺施設居住者以外の利用者は、100m前後からの利用に限られる。また、公園利用と周辺施設の特徴として、「休憩」、「食事」といった行為は、「オフィス」、「コンビニエンスストア」からの利用がほとんどで、「コンビニエンスストア」には、これらの行為に必要な要素をもっており、「コンビニエンスストア」と公園利用が1つの一体化した行動にまとめるものと考えられる。

6. まとめ

CBD内の住区基幹公園は「休憩」、「食事」といった利用が多く、比較的短時間での利用となっている。これは、公園付近に業務施設が多く、就業者は、勤務形態が利用時間に影響を与えていると思われる。就業者は100m前後からの利用に限られ、公園付近にコンビニエンスストアなどの小売店舗があることで、公園と小売店舗の一体化により、利用が促進される可能性がある。このことから、都市公園法施行令第7条及び第8条を活用することにより、公園内に一定時間、売店、飲食店等を設置することで、利用者のニーズに応えることによって利用上の質的向上を図ることも可能と考えられる。

各公園によって単純平均距離は異なるが、概ね150m以内が公園の利用に深く関わっているといえる(表-1)。また、公園の大きさとアクセス距離は比例関係がみられ、公園の面積が大きくなるにしたがって誘致圏が広がる(図-6)。⑤の単純平均距離が飛び出ている理由として、⑤はCBDと第二種住居系地区の境に位置しており、公園周辺の立地環境によって特徴がみられると考えられる。

表-1 各公園の平均アクセス距離と面積との関係

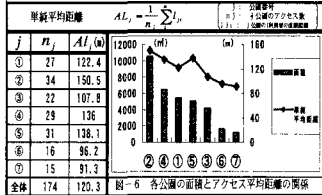


図-6 各公園の面積とアクセス平均距離の関係

公園から半径150m以内の施設は、公園利用に深く関わっていることから、半径150m内の施設別構成比をみると、⑤は住宅が、それ以外の公園は、オフィスビル、商業店舗といった商業・業務施設が過半数を占めた。また、オフィスビルの比率の多い公園では、就業者の利用が高い割合を占めている(図-2)(図-7)。

表-2 対象公園全体からみた利用形態と周辺施設の関係

利用形態	休憩	食事	遊ばせる	会話	散歩	読書	運動	会場で	構成比	単純平均距離(m)
周辺施設										
オフィス	○	○							41.4%	119
コンビニ	○	○							27.0%	119
マンション	*	*	○	*	*	*	*	*	19.5%	184
学校	*	*	*	*	*	*	*	*	9.8%	76
飲食店	*	*	*	*	*	*	*	*	2.3%	51
構成比	35.6%	32.2%	13.8%	9.2%	4.6%	2.8%	1.1%	0.6%	174	
単純平均距離(m)	103	132	180	93	160	126	169	138		

(注) セル内の○の大きさは、実数値をもとにしている。

表-3 平均距離の小さい(東横樹、久宝)公園における利用形態と周辺施設の関係

利用形態	休憩	食事	遊ばせる	会話	散歩	読書	運動	会場で	構成比	単純平均距離(m)
周辺施設										
オフィス	○	○							48.4%	109.5
コンビニ	○	○							25.8%	69.8
マンション	*	*		*	*	*	*	*	12.9%	148.5
学校	*	*	*	*	*	*	*	*	0.0%	0
飲食店	*	*	*	*	*	*	*	*	6.5%	48
構成比	51.6%	29.0%	0.0%	0.0%	6.5%	3.2%	0.0%	3.2%	31	
単純平均距離(m)	106.8	69.1	0	0	150.5	64	0	138		

表-4 残り5ヶ所の公園における利用形態と周辺施設の関係

利用形態	休憩	食事	遊ばせる	会話	散歩	読書	運動	会場で	構成比	単純平均距離(m)
周辺施設										
オフィス	○	○	*	*	*	*	*	*	39.9%	121.6
コンビニ	○	○				*	*	*	26.6%	130.9
マンション	*	*	○	*	*	*	*	*	21.0%	188.8
学校	*	*	*	*	*	*	*	*	11.9%	76.2
飲食店	*	*	*	*	*	*	*	*	0.7%	60
構成比	31.5%	32.1%	16.8%	11.2%	4.2%	2.8%	1.4%	0	143	
単純平均距離(m)	101.4	143.7	186.7	92.9	163.3	141.5	169	0		